

乳幼児の電子メディア接触と言葉の遅れ（発達障害）

Kids21 子育て研究所 片岡直樹

今、保育園で言葉遅れの赤ちゃんが増えています。多くはすでに生後6カ月で表情が乏しく、微笑が消えています。3～5家庭に1家庭では朝から晩までテレビがつけばなしであります。そのうち、5～10人に1人の赤ちゃんがコミュニケーション不良をきたしています。出生30～50人に1人にあたります。テレビがついていても、その3倍ぐらいの時間を抱っこしたり、戸外へつれて出て応答環境が十分確保できれば問題は発生しません。

言葉遅れ相談事例

- 最近の相談事例（メール）を示します。年間100～200通のメールがきています。
- 東京：2歳の娘が2ヵ月前に自閉症と診断されました。🐣を拝見し、2ヵ月前からテレビを消していますが回復に向かっているのかわかりません。
- 青森：1歳7カ月の男児ですが意味のある言葉が出ません。視線が合わず呼んでも振り向きません。
- 京都：11ヵ月になる男児ですが目が合わず喃語が出ません。テレビが一日中ついています。泣くとスマホを見せます。
- 広島：4歳の男児ですが、アニメの主人公になりきった行動や仕種（しぐさ）が多く、友達と遊べません。言葉も少なく単語のみです。
- 名古屋：2歳の娘の言葉遅れです。自閉症の疑いといわれています。10ヵ月からテレビにはまりました。1ヵ月間テレビを中止し目が少し合うようになりました。
- 佐賀：1歳7カ月の子どもが先日1歳半検診で発達障害と診断され支援センターへ紹介されました。目を合わせない、指差ししない。言葉がない。
- 埼玉：息子（4歳5か月）、娘（2歳0ヶ月）がおり、生まれたときからテレビ漬けで育てました。息子は広汎性発達障害と診断され、娘はまだ言葉が出ません。
- 東京：先週1歳半検診で有意語を発しない、指差ししないため、2歳時再検診をうけることになりました。インターネットで先生が警鐘を鳴らしている「新しいタイプの言葉遅れ」に見事にあてはまり、🐣を購入して読み、愕然としました。
- 千葉：🐣を拝読し、1歳5か月男児について相談メールしました。指差しがなく、意味のある言葉が出ません。テレビ漬けだったことが悔やまれます。
- 東京：2歳0ヶ月の娘が言葉を一言もしゃべりません。半年前から保育園へ通っていますが、集団になじめず一人で遊んでいます。園長先生から専門機関へ紹介されました。
- 新潟：2歳半男児がマンマ、ワンワンなどの言葉が一言も出ないが、理解はできています。1日中テレビがついていましたが、🐣を読みわらをも掴む思いでメールしました。
- 千葉：2歳半の息子が言葉が出ません。バナナのととかオニギリのギなど1音はいくつか出ます。テレビ、DVD、CDを1日何時間も見せていました。
- 群馬：2歳3カ月の男児が言葉をはっきりしゃべりません。バイバイ、パー、キターなど単語らしいものが出ますが増えません。🐣を拝読し、2週間前からテレビを消しました。

言葉遅れ3症例の映像解説

全国各地からやってくる、1～3歳台のコミュニケーション障害児（発達障害児）は5000名を越えています。この15年間は、受診時生い立ちの生活記録ビデオを持参してもらっており、現在、約500名分のビデオ（DVD）が集まっています。今回、言葉の出ないコミュニケーション障害を重いものから軽いものまで三つのパターンに分け、その典型例3例を解説します。（YouTube映像27分で紹介しています）。

それら3症例は、症例1：対人（-）理解（-）言語（-）→自閉性言葉遅れ、症例2：対人（+）理解（-）言語（-）→受容性言葉遅れ、症例3：対人（+）理解（+）言語（-）→単純表出性言葉遅れであります。

【症例1】2歳2ヵ月、男児 初診：表情（-）視線（-）指さし（-）まね（-）指示（-）

生後テレビがつけばなしだった。生後4ヵ月テレビの前で手足をバタバタ打ち鳴らし、テレビに向かって「キャッキャッキャ」と声を出す。1歳11カ月の映像では、表情がなく、凍りつくような目つきでテレビの方を見ながらジャングルジムの上方で一人で遊んでいる。親が呼びかけても振り向かない。発声はない。初診の2歳2ヵ月からテレビを禁止し、家族が丁寧に関わったところ、3歳でごっこ遊びができ、母親の指示に応じて、洗濯物を干すなどの行動を見せ始めた。3歳半で、かん高い声ではあるが、伝わる単語が10個くらい出てきた。対人関係が育ち、感情表現が豊かになっている。4才6ヶ月普通の会話のできた。現在、小学6年生普通学級で国語、算数が得意。

【症例2】2歳9ヵ月、男児 初診：表情（+）視線（+）指さし（-）まね（-）指示（-）

生後テレビがつけばなしだった。生後2ヵ月から英語教材の音を聞かせ続けた。1歳時、父と笑い合っているが、言葉はない。1歳半、英語教材の音声を真似て、「ガッガッ」と発声するが、意味のない吠え声でしかない。2歳半、コミュニケーション障害と診断され、生涯治らないといわれ、母親はショックで立ち上がれなかったという。初診の2歳9ヵ月以後、音の出るものを全て禁止し、じゃれあって関わるよう指導する。3歳時、まね言葉ながら、「パパ、イッチャッタ」「ニューニュー、オイシイ」など話し言葉が出た。5歳半、冗談を言って家族を笑わせる程に成長した。現在、中学1年生、優等生。

【症例3】1歳9ヵ月、男児 初診：表情（+）視線（+）指さし（+）まね（+）指示（+）

生後、テレビがつけっぱなしだった。1歳半の映像では表情豊かで、「おつむてん」などの指示に年齢相応の反応をしている。しかし、祖父や父と積み木遊びをしている背後にテレビの音があり、テレビのつけっぱなしが日常であったことが容易にわかる。母親が絵本を読み聞かせている場面では、指さしができるのに、まったく声が出ず、無声のままであった。一方、テレビの音楽場面では楽しそうに「キャッキョ」と大声を出している。初診を機にテレビ、ビデオ、CD、電子おもちゃを禁止した。2歳時自分で本をめくりながら、母の声を真似して、「アッアッ」と声を出している。3歳誕生日の映像では、お寿司の具を指さして患児が「これなに」と聞くと「しいたけ」と母親が答えている。するとすぐさま患児は、「しいたけは、いらん」と自分の言葉でニコニコしながら言っている。現在、小学6年生、優等生。(YouTube 片岡直樹で検索すると3症例の動画が見れます)

◆症例1は親に全くなつかず言語理解も言葉もない重いタイプ、症例2は親になついているが、言葉の理解が悪い受容性言葉遅れのタイプ、症例3は親の言うことは何でも理解できるが、言葉だけが出ない表出性言葉遅れの軽いタイプです。重いものを1とすれば、軽いものは10。すなわち重いものが100人~200人に一人、軽いものは10~20人に一人ぐらい見つかるかと割り出しています。

定形人間(健常人)の愛着発達と発達障害における愛着形成の頓挫

動物は、生まれてすぐ imprinting(刷り込み)がはじまり、短時間でひとり立ちします。ところが、人間は、imprintingに1~2年間を要し、応答環境の下で、歩いたりしゃべったりするようになります。生まれながら人間の子どもには、みんな天才的能力(天分)が備わっているけれども、特定の大人がそばにいないと、子どもは天分を発揮することができません。

生後、母児間で抱かれる、乳をのむ、あやされる、眠る、泣くなどを通してお互い一緒にいることで心地よくなり、愛着をおぼえます。そして、五感の体験により笑う、怒る、いがり泣くなどの感情が育つ。まねをすることでコミュニケーション力が芽ばえます。すべて、応答環境が成立することが必須条件です。ここに定型人間(健常人)と重い言葉遅れ(自閉症児)が育っていくヒントがあります。ポウルビーの愛着理論によると、定型人間の愛着発達は次の段階を経て育ちます。

- 第一段階(誕生から2カ月) : 人の弁別をとまなわれない定位と発信(非選択的愛着)
- 第二段階(3カ月~6カ月頃) : 特定の弁別された人に対する定位と発信(選択的愛着)
- 第三段階(6カ月~2才頃) : 分離不安(抱っこをせがむ、後を追う、響き合い)
- 第四段階(3才以上) : 自立(自分で考え行動する、人の役に立つ)

自閉症児は誕生後愛着が育つ時期、混沌としていて人間との選択的愛着が成立しないということが、世界的に通っている自閉症病因説であります。生後まもなく親は「どこかおかしい」と気づきます。おとなしい、目を合わせようとしない、笑ったり泣いたりしない、抱っこを嫌がる、泣きだしたら止まらないなどです。以上は、自閉症の専門家が頭の中で考えている乳児像であります。実際に体験した人は皆無でありましょう。すべて、両親から聞き出した回想であります。自閉症は、脳機能の障害により生じるもので、育て方やしつけが原因ではないといわれます。自閉症は完全に「治す」治療法はないと自閉症の聖書「自閉症スペクトル」(ローナ・ウイング)に書かれています。

一方、私の持論である自閉症の原因は後天性であります。私が出合う自閉症児は、全員定型発達児がたどる愛着発達の第一から第四段階までの途中で、頓挫してしまうために、愛着形成が失敗に終わるのです。早ければ生後半年ぐらいで出合う子もおれば、1才、2才あるいは3才ごろやってくる子どもたちもいます。500人以上の赤ちゃんのビデオが集まっています。生まれた直後からホームビデオで録画された映像をみると、赤ちゃんの時は目が合い、笑ったり、喃語をしゃべったりしています。生後2~3カ月のとき、全員母親と目が合って、微笑みを認めます。さらに不思議なことには、折れ線タイプの言葉遅れ(小児崩壊性障害)が自閉症の30%を占めることが、自閉症バイブルに堂々と記載されています。愛着形成の途中での頓挫そのものです。

この頓挫がなぜ起こるのが言葉遅れ問題の根元であります。赤ん坊が“音”“光”環境にはまるのです。すなわち、愛着は当初育っているけれども、途中テレビ、ビデオ、CD、BGM、電子おもちゃ、知育おもちゃ、フラッシュカードなどの環境の下で、愛着が消失するのです。テレビが出現する以前にも当然、自閉症児は存在しています。人間との応答環境にない、文字、数字、パズルなど早期教育(デジタル育児)という事物に興味をもつ環境があったことが察知されます。健常の子どもは、すべて生きる術を無意識に自然に学びます(アナログ育児)。赤ちゃんは自分で触れたり、見たり、聞いたりして、身につけていきます。赤ちゃんに対して、物をつかむことや見ること、聞くことをいちいち教え込まなければならなかったら、人類はこの世に存在しなかったでしょう。無意識の応答環境(間主観性)によってコミュニケーションの基本が育つことが人間存在の根元なのです。三つ子の魂百までという先達の言葉があります。私は3歳を過ぎた言葉遅れの児はむつかしいことを実感しています。おわりに 発達障害と診断される言葉遅れの子どもたちは、そのほとんどが後天性に発症しています。音・光環境などによって無意識の応答環境が破綻されることが愛着形成不全をきたすのです。われわれ小児科医は、乳幼児健康診査時に対応しなければならない緊急課題です。